



第六十七号

会報 浄土真宗 太陽の会

年頭の「挨拶」

新しい年の初めに「ご挨拶申し上げます。昨年、日本において豪雨や台風、地震など多くの災害に見舞われました。災害によってお亡くなりになられた方に哀悼の意をあらわすとともに被災された方に心よりお見舞い申し上げます。

私たち仏教徒としてこの社会で阿弥陀仏の本願をよりどころとした念仏者として、さまざまな人生の課題に対応して生きていかなくはなりません。それによって周りの人々には、一般社会の価値観とは異なる、阿弥陀如来の救いに支えられた安らかな生活があることを知ってもらうことができ、この社会には多種多様な価値観があることを示すことになりま

う。社会実現への貢献があるといえるでしょう。

「帰命無量寿如来」この言葉は限り

きみょうむりょうじゅによらい

ない量ることができないのちの如来・阿弥陀仏に全ておまかせします。『正信念仏偈』の最初に親鸞聖人がおっしゃっています。この無量寿は目に見えず、とても形では表せませんが、大きないのちの上に私たち一人一人が生かされていきっている。これはとても気づきにくいことではあるかもしれないませんが、私たち一人一人の命は約38億年前に生命が誕生してから命がリリースのバトンのように受け渡しながら今のこの命があるのです。決して当たり前にある命ではない。この尊い命を有り難く感じて本年も皆さまと共に歩ませていただきたいと思えます。

合掌

彼岸会

平成三十年九月二十二日(土)
秋季彼岸会が太陽の会、三階

本堂にて執り行われました。太陽の会の法要の中でも彼岸会は多くの方にご参拝していただいて午前と午後に分けて二回の法要となります。この日も延べ、約200名の参拝をいただき、彼岸会法要を務めさせていただきました。



もちつき大会



平成三十年十二月八日(土)毎年恒例となりました太陽の塔桜ヶ丘にて一年の感謝と平成三十一年の皆様への益々のご健康をお祈りして、もちつき大会を開催させていただきました。ご来場いただきました多くの皆様に御礼申し上げます。

前日から餅米を水に浸してかまどに薪をくべ、丁寧に蒸らしていきます。ご飯は「炊く」お餅はこの「蒸す」がおいしさの秘訣です。



ほうおんこつ 報恩講法要

平成三十年十一月十六日(金)に太陽の会3階本堂にて報恩講法要が執り行われました。

報恩講とは、宗祖親鸞聖人の御命日を通して、聖人が生涯をかけてお念仏のみ教えを広め伝えられたご遺徳を偲びつつ、あらためて阿弥陀如来のお救いを深く味わわせていただくご法要で、浄土真宗の門徒にとって、もつとも大切なご法要です。来ていただいた会員様と共に報恩講のご



縁を感謝して改めてこのみ教えをお伝えくださった親鸞聖人の御恩報謝の生活を送ることの大切さを実感することができました。

広島竜王院

旧年中の感謝の気持ちと本年、慈光照護のもと益々のお念仏御相続に励むことを広島竜王院にて阿弥陀さまに報告させていただきました。



お二人の僧侶をお迎えし、読経と鐘の音に包まれる竜王院本堂

クイズ浄土真宗

Q、葬儀の日取りは、どう決める？

- ① 葬儀社のいう通りにする
- ② 導師を勤めるお寺に聞く
- ③ 友引の火を避けて行う

人が亡くなると、まず葬儀社に連絡するというケースが大半を占めるようになりました。病院で亡くなる方が9割近くを占め、遺体搬送の寝台車を葬儀社に手配してもらわなければならないからです。

そこで、葬儀社が中心となって、葬儀の段取りをつけることになりま
す。まず式場と日取りを
決めるのですが、そこで
考慮されるのが斎場の



空き具合と遺族の意向。しかし、実際は、葬儀社の都合が優先されています。そして、日時と場所が決まってから、お寺に連絡するといったケースが増えてきているのです。

葬儀を執行するのは、仏式であれば当然、導師を勤める寺院の住職です。導師の意向にそって、葬儀社の方も動いてもらうのですが、それが崩れると、葬儀自体の中身も壊れかねません。しっかりと、葬儀の核になる人は誰なのかを踏まえ、導師であるお寺の都合を尊重して、葬儀に臨んでいただければと思います。

なお、友引などの日の吉凶を気にする方もいますが、これも導師に相談され、こだわらずに、中身のある葬儀にしてもらいたいものです。

Q、葬儀の日取りは、どう決める？

クイズの答え・②

たんにしよう
歎異抄を読む

『歎異抄』は、親鸞聖人が亡くなった後、門弟の間に真実の信心に背く異議が生じたことから、聖人から口伝を受けた著者が、同心の行者の不審を除くために著した親鸞聖人の言語録です。



耳の底に留むるところ、

いささかこれを注す。

釋蓮如(『歎異抄』序)

一つの言葉との出遭いが

私の人生を支えてくれることもある

ありがたいことに、親鸞聖人の弟子の唯円が書いたと言われている『歎異抄』の中に、親鸞聖人の言葉が書き残されている。その言葉が、私の人生を支えてくれる。真実の言葉に耳を傾けよう。

「月のことば」九月～十一月

太陽の会では、館内入口・本堂入口に「月のことば」を掲載させて頂いております。お経は難しいと思われる方もいらっしゃると思いますが、身近なお経として皆様のお心で味わって頂けたら幸いです。

【九月のことば】

まことの信心の人をば
諸仏とひとしともうすなり

「親鸞聖人御消息」より

阿弥陀さまのお心を信じ、お念仏を称えながら生きていく人は仏さまと同じ様なものです。なぜなら 撰取不捨せんしゆふしやという一度抱き取ったら決して捨てません)阿弥陀さまのお心(いのち)が宿っているからなのです。

【十月のことば】

煩は身を悩は心をなやます
「唯信鈔文意」より

「煩惱」とは「自分の思い通りの世界」

その心は必ず思い通りにならない世界を生み出します。怒りと愚痴の人生です。自分の幸せよりもお粗末なこの私の幸せを先にせずにはおれないこれが阿弥陀さまのお心です。そのお心にお仕し尊い人生にいたしましょう。

【十一月のことば】

聞というのは如来の誓いの
御名を信ずと申すなり

「尊号真像銘文」より

まことの師との出逢いは、難易な事柄のなかにおいてもつとも難しいことです。いかに善き師でもその教えに耳を傾けようとしない自分は善き師と仰ぐことはできません。私が流転輪廻るてんりんねして迷いから離れられないのは、浅はかな私の疑心が阿弥陀仏の本願を妨げているに他ならないのです。



浄土真宗 太陽の会
平成三十一年行事予定

○春季彼岸会 合同追悼法要

開催日 3月 23日 (土) **2部制**

午前 11時 / 午後 2時より

○花まつり週間

開催日 4月 8日 (月) ～ 14日 (日)

○合同追悼法要(三原・福山西太陽霊園)

開催日 5月 11日 (土) 11時より

○盂蘭盆会

開催日 8月 13日 (火) **2部制**

午前 11時 / 午後 2時より

○秋季彼岸会 合同追悼法要

開催日 9月 23日 (月) **2部制**

午前 11時 / 午後 2時より

○報恩講 合同追悼法要

開催日 11月 16日 (土) 11時より

※ご法事や会場貸の予約を承っております。込み合う時期がありますので、早めのご予約お願い致します。なお、ご法事等は宗旨宗派を問わず、会場をご使用頂けます。

(法務担当者)

